

普及活動情勢報告（平成30年9月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

ニラの出荷調製作業の改善に向けて ～ニラ洗浄そぐり機利用者個別調査～



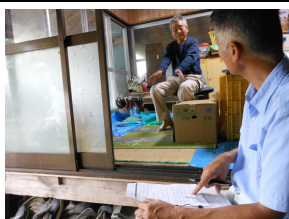
そぐり機を使った作業

8月から、普及所ではJA四万十ニラ部会員を対象に、そぐり作業の効率化を目指して作業工程などの調査を行っており、現在6戸の農家で調査しました。

この調査は、「そぐり機を上手に使っている人はどんな感じやろうか」「そぐり機が入っちゃう人で集まってもおもしろそうやねえ」といった生産者の声などを受けて、そぐり機を含めて出荷調製に係る作業工程や時間を調査しているもので、現場では、実際にそぐり機の作業体験もさせてもらいながら、できるだけ生産者の目線に立った調査ができるよう心がけています。

普及所は、10月に調査結果を取りまとめて、JA四万十ニラ部会員と協力しながら、ニラの出荷調製作業の改善に取り組んでいきます。

アンケート調査9割が完了！ ～大正・十和地域でのアンケート調査の実施～



個別にアンケートをもとに聞き取りを実施

7月から、普及所とJA高知はたが連携して、大正・十和地域の営農や産地の維持、発展に向けた対策の検討を行うため、生産者86名を対象に個別巡回によるアンケート調査を行っており、9割で終了しました。

生産者からは「後継者がいない」「若者に来てほしいが、農業だけで食べていけない」「農地は荒らしたくない」などの多くの意見や、産地に対する思いを聞くことができました。

普及所は、JA高知はたや四万十町役場とともに、多くの課題がありますが、このアンケート結果を基に、営農が継続できる体制づくりに向けて取り組んでいきます。

ミョウガにおける環境制御試験の効果と環境測定機器の推進 ～JA四万十ミョウガ部会総会の開催～



総会の様子

9月7日、JA四万十興津支所でミョウガ部会の総会が開催され、農家30名が参加しました。

普及所からは、環境制御試験で収量が向上した事例の報告や、収量の向上に向けた栽培管理の可能性について報告しました。また、環境測定装置の導入によりリスク回避ができることなど、導入の意義について周知しました。

普及所は、JA四万十など関係機関と連携して、環境制御による収量向上に向けた技術支援や環境測定機器の導入推進を行っていきます。

生産者が集まって収穫作業を確認 ～JA四万十WCS研究会の開催～



現地検討会の様子

9月10日、JA四万十WCS研究会が現地ほ場で、収穫作業の確認などを行う研修会を開催し、生産者20名が参加しました。

普及所は、生産者ほ場を巡回した結果を踏まえて、WCS用稲を収穫するタイミングについての指導を行いました。また、今後の気象情報と、現在栽培が増えている品種“たちあやか”の収量性の試験結果を提供しました。生産者からは、ほ場を干すタイミングなど多くの質問が出され、情報共有が進んだ様子でした。

普及所は、今後も畜産農家と連携してWCS用稲の生産振興を支援していきます。

働きやすさとチームワークを大切に ～はちきん農業大学第3回高南地区講座～



山本美加さんの講演を聴く参加者

8月31日、第3回高南地区講座を四万十市で開催し、高南、幡多両地区から農村女性リーダーなど21名が参加しました。

「ファームヤマモト」の山本美加さんから、30名を超える従業員をまとめながらラッキョウ、ナバナの大規模経営に取り組んでいるお話を聞きました。

参加者からは、「農業の厳しさを共感した」「作ることは楽しい、しかしお金にならんとしんどいね」「休みをつくることは大切」などの意見があり、高南、幡多両地区の交流も図れました。

普及所では、今後も女性農業者の経営能力の向上や県域の農村女性リーダーとの交流支援も行っていきます。

農作業プロセスの見える化が必要 ～工程管理個別診断の実施～



生産性向上推進アドバイザーから助言を受ける代表者

9月19日、四万十町若井地区で大規模に露地野菜を生産している四万十野菜（合）を対象に、高知県生産性向上推進アドバイザーによる工程管理個別診断を実施し、代表者や普及所など9人が参加しました。

四万十野菜がハクサイの定植作業を行っているほ場や、サトイモの出荷調製作業などを見学した後、生産性向上推進アドバイザーの感想やアドバイスをいただきました。

四万十野菜の代表者からは、農作業プロセスの見える化やデータの蓄積が重要であり、今後は、できることから取り組んでいきたいと前向きな意見が出されました。

普及所は、今後も農業者の農作業の工程管理の改善の取組を支援していきます。